

令和5年度 板橋区立成増ヶ丘小学校 学校経営方針

令和5年4月12日・14日
板橋区立成増ヶ丘小学校
校長 西谷 秀幸

1 教育目標

- やさしい子 … 自分や相手を大切に思う心を持ち、相手の痛みが分かる子
- ◎ 考える子 … 自分で考えて学習したり、行動したり、表現したりできる子
- 元気な子 … 気持ちの良い挨拶をする子、心も体も健康な子

★学びのエリア共通の「めざす子ども像」

- ◎ 集団美 … 集団の中で自分がどうあるべきかを考え、行動できる児童・生徒
- 探究 … 自ら問いをもち、思考・判断・表現したことを生かせる児童・生徒
- 協働 … 人との関わりや地域を大切にする児童・生徒

2 学校経営の基本方針（3つの柱）

- (1) 授業と学校生活が楽しい学校
- (2) 見通しをもって主体的に取り組む学校
- (3) 違いを受け入れ、互いに協力できる学校



3 学校経営方針の具現化

(1) 授業と学校生活が楽しい学校

- ① 「内容・方法・変容（向上）」の3つの視点から「楽しい」授業を行う。
 - 「内容」「方法」「変容（向上）」の3つの視点から楽しい授業を創造して授業改善
- ② 一人一台端末を効果的に活用し、新たな時代の学習を推進する。
 - 「ChromeBookの活用推進プラン」をもとに、小中9年間の系統性を意識して一人一台端末の活用技能を習得（低・中学年…ベネッセのアプリ中心、高学年…Googleのアプリ中心）
 - 卒業までに、全児童が「Google スライド」を使って効果的なプレゼンテーションを実施、キーボードによる文字の正確な入力方法（10分間に100～200文字程度入力）を習得
 - 学年・学級閉鎖、臨時休業、登校できない児童の対応 → 「Google Meet」でオンライン授業
 - 東京SNSノートを活用 → 情報モラルの基本を身に付け、適切に活用できる判断力を育成
- ③ 東京都の推進校の成果を生かして、プログラミング教育を推進する。
 - 教材用ロボット等を活用した体験的な活動 → プログラミング的思考力を育成
- ④ 教師としての資質向上、指導力・授業力の向上を目指す。
 - 校内研究、OJT研修、都や区の研修 → 学び続けることで、指導力・授業力を向上
- ⑤ 学び方を学ばせ、基礎・基本を定着させる。
 - 学び方を身に付けさせることで、知識を自ら獲得
 - 成丘タイム（朝学習）・成丘学習教室（放課後の補習）・サマースクール（夏季休業中の補習）
- ⑥ 授業規律・学習規律を徹底させる。
 - 学習の土台 → 「話の聴き方」と「イスは4本脚ですわる」ことを徹底
 - 「はい（返事）」「立つ（起立）」「です（言葉遣い）」の徹底
- ⑦ 言語活動・読書を充実させる。
 - 「成丘小暗唱詩文集」の積極的な活用（年間6つ以上暗唱）
 - 読書の習慣化（目標：年間1万ページ → 読書1万ページ修了証）
- ⑧ 道徳の時間の充実を図る。
- ⑨ 体力向上の意欲を高める。
 - 体力向上に向けた「1校1取組」「1学級1実践の取組」
- ⑩ 地域を積極的に活用し、教材化を図っていく。
 - 地域人材・施設・文化等、地域を生かした教育活動 → iCS、学校支援地域本部との連携
 - 「成増里神楽」等の郷土芸能や地域の自然・文化・教育力 → 体験的な教育活動の推進

(2) 見通しをもって主体的に取り組む学校

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現し、児童の「読み解く力」の育成を図る。
 - 「問題解決型・探究型の授業」「協働学習の導入」→ 「読み解く力」の育成と「深い学び」
 - 社会科を中心に、捉えた事実や事象をもとに、意味を考えてまとめる学習の積み重ね
- ② 「教える」授業から、児童が「主体的・対話的で深く学ぶ」学習へ転換を図る。
 - 自ら問題を設定 → 問題を協働学習・対話的な学習で解決 → 深い学び（思考力・表現力）
 - 総合的な学習の時間の改善（プロジェクト型学習）→ 調べて考えたことを他者（専門家・有識者・関係者・ユーザー等）と共有してフィードバック → さらに改善 → 表現
- ③ 家庭学習を充実させ、学びの習慣化を図る。
 - 「家庭学習の手引き」を活用 → 与えられる宿題から主体的に取り組む自主学習にシフト

(3) 違いを受け入れ、互いに協力できる学校

- ① 自分とは違う他人や考えを受け入れ、互いに協力できる学級・学年集団をつくる。
 - 「多様性」「インクルージョン」→ 互いに協力できる学級・学年集団を構築
- ② 「学校は楽しいところ」＝「一人一人の居場所や活躍がある学校」にする。
 - 集団行動が苦手な児童や活躍の場が見い出せない児童も「居場所や活躍がある学校」に
 - ほめるに値するものを見付ける目、子供のすばらしい行為をすばらしいと思う感性を磨く
- ③ 感染症対策を講じながら、特別活動の充実を図る。
 - 丘っ子活動（異年齢集団活動）や青空集会（全校遠足）→ 友達や下学年に優しい子の育成
 - 小さな失敗を次に生かせるように、温かい心で見守り、助け合い、励まし合える集団を構築
 - 「見えないところで支えてくれている人がいる」ことに気付かせる → 共に生きる姿勢を育成
- ④ いじめの未然防止に努めるとともに、早期発見と早期対応を図る。
 - 「いじめ防止対策基本方針」→ 未然防止、いじめの芽を見逃さず、早期発見と早期対応
- ⑤ 特別支援教育を充実させる。
 - ステップアップ教室「成丘ルーム」→ 一人一人に合わせた教育で子供の良さを伸長
 - スクールカウンセラー（SC）や関係諸機関と連携して個に応じた指導を推進
- ⑥ hyper-QU（学校満足度意識調査）を効果的に活用する。
 - 5・6年生で実施し、生活指導全体会等でhyper-QUの結果を全教員で共有
- ⑦ 積極的な生活指導を充実させる。
 - 話し合いによる解決を身に付け、相手の身になって考えられる子を育成
 - 児童が、大人の指示を待たずに自分で自分の身を守ることができる危機回避能力や態度の育成

(4) その他

- ① ホームページや各種お便りを充実させる。
 - 学校での様子を積極的に発信 → 学校の外からでも教育活動の様子が見える学校に
 - 積極的な情報発信 → 学校と家庭・地域との絆を深め、信頼される学校に
- ② 当たり前のことが当たり前できるようにする。
 - 「成丘小の当たり前のこと10か条」→ 家庭・地域と連携し、全教職員で共通理解をして徹底

当たり前のこと10か条 …家庭に配布して学校と家庭で徹底する。

- | | |
|----------------------------|----------------|
| ① 気持ちの良い挨拶をします。 | 【挨拶】 |
| ② 朝、登校したら、名札を付けます。 | 【名札】 |
| ③ 名前を呼ばれたら、「はい」と返事をします。 | 【返事】 |
| ④ 「ありがとう」「ごめんなさい」を素直に言います。 | 【ありがとう・ごめんなさい】 |
| ⑤ 丁寧な言葉遣いをします。 | 【言葉遣い】 |
| ⑥ 話は、目と耳と心で聴きます。（聴く＝耳＋目＋心） | 【話の聴き方】 |
| ⑦ イスは4本脚ですわります。 | 【すわり方】 |
| ⑧ 上ばきや靴は踏まずにはき、そろえて置きます | 【上ばき】 |
| ⑨ 授業中は勝手にしゃべったり席を立ったりしません。 | 【おしゃべり・離席】 |
| ⑩ ポケットに手を入れて歩きません。 | 【ポケットハンド】 |

- ③ 保幼小中連携・小中一貫教育（「賢くなります学びのエリア」）を推進する。
 - エリア旗を校門付近に取り付け、保護者や児童・生徒に見える化
 - ChromeBook活用推進プランをもとに、9年間の系統的を意識した指導
 - 赤塚二中との一歩進んだ小中一貫教育 → 児童生徒の交流、教職員の交流、施設の利用など
- ④ 感染症対策を講じながら、学校に音楽・歌声を響かせる。
- ⑤ 校内外の安全を確保する。
- ⑥ 学校レガシー2020として継続して育成していく。